

戦争と平和を考える

2013年夏

終戦・被爆特集番組・民放編

8/4 朝日系（後 9:00）

ドラマスペシャル「二十四の瞳」

*原作、壺井栄。木下恵介監督の映画化作品が有名ですが、今年は、木下監督の生誕100年にちなみ、映画制作当時の企画意図「人間の幸福と平和を願う」というテーマを問いかけます。ヒロインの教師・大石久子には、松下奈緒。1928年に22歳で新任教師として島の分教場に赴任してから、夫や娘を亡くして再び教壇に立つ40歳までを演じます。

日本系（深夜 0:50）

ドキュメント'13「大陸の花嫁学校～戦時下の乙女たちのゆくえ」（仮題）

*長野県は戦前、「満州」に全国でいちばん多い約3万3000人を送り出しました。1940年にいわゆる「花嫁学校」として「長野県立桔梗ヶ原女子拓務訓練所」を開設しました。翌年、訓練生は開拓団を訪問し、4組が結ばれます。そのひとり、90歳の女性は、飢えと疲労で子どもふたりを亡くし、ソ連軍侵攻の混乱の中で逃避行、ふたりの子どもを連れて58年に帰国しました。埋もれた戦時下の国策を掘り起こします。
テレビ信州制作

8/5 TBS系（後 9:00）

「生きる～戦場に残した伝言」

*戦前最後の沖縄県知事・島田叡（あきら）の人物像を、ドラマとドキュメンタリーによって浮き彫りにします。米軍との地上戦が必ず起きると言われていた45年1月に沖縄県知事として赴任した内務官僚の島田は、県民の疎開を進め、食料調達に奔走します。地上戦に突入した後、県庁職員を「生きる」と励まします。彼は、組織的な戦闘が終結した6月23日を前後して消息を絶ちました。島田役を緒形直人が演じます。

8/11 日本系（深夜 0:50）

ドキュメント'13「伝承者～あの日を知らない語り部たち」（仮題）

*広島市は、被爆者に代わって原爆を語るができる「被爆体験伝承者」と呼ばれる人材を育てようとしています。証言活動を続ける82歳の女性の伝承者をめざすのは、戦後生まれ、奈良県の65歳の男性。被爆2世です。あの日を知らない世代が語り部になれるのか。葛藤の先に見えてきた、原爆を語り伝えることの意味を問います。広島テレビ制作